

保護者のみなさま

令和4年(2022年)3月7日

豊能町立東ときわ台小学校
校長 張 裕 太 郎

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、学校協議会の各委員の方々からご意見をいただきました。

全体の集計結果をみると、ほとんどの項目において肯定的評価となっており、本校の教育活動に対して理解を得られている部分が多いと考えています。しかしながら、全体的に年々肯定的評価が減少傾向であることや、特に質問1「学校に行くのが楽しい」の肯定的意見が高い割合でないことを真摯に受け止め、今後のよりよい教育活動等のため、改善と発展をめざしてまいります。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方々からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、仲間とともに最後までやり切ることを大切にしながら、学校として組織的・継続的に改善・発展を図ってまいります。今後とも、保護者・地域の方々からご理解と参画を得ながら、関係機関との連携し、進めていきます。どうぞよろしく願いいたします。

互いに認め合い支え合い、人権を大切に作る集団作り	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校はいじめやこどもの悩みに対応している」「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」「学校に行くのが楽しい」「学校生活を楽しんでいる」の肯定的評価(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)が、昨年度同様高くない。その理由や背景を校内で考察、検討し、より一層丁寧に対応していく。 ・挨拶に関しても、肯定的評価の割合が高くない。校内においても「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉も含め、自分からすすんで言える児童は多くない。 ・「学校は、一人ひとりの個性を大切に、意欲や自信を持たせている」「学校は、互いに認め合い支え合う集団づくりに取り組んでいる」の肯定的評価は高くなっている。教職員が児童の

	<p>アセスメントをもとに一人ひとりの良さに目を向け、学級集団づくりに活かした結果が表れたと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思う」は、11月12日配付の学調報告と同様、謙虚さや控えめな面、よいところと考える基準が個人で異なり、自己に厳しい判断をしている、などが表す結果と捉えることもできるが、一方で、失敗を恐れる、他人との比較をしてしまう、などの結果も表れていると考えられる。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さず、学校体制として早期発見・未然防止に努める。また、普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を低中高の学年団を中心に教職員で共有して、日々の教育活動に活かしていく。 ・コロナ禍の状況にもよるが、児童会を中心とした挨拶運動など、啓発活動を行うことにより、互いに声をかけやすい環境を作り、自分から挨拶しようと思える児童を増やす。また、児童朝会などで、生活目標の提示やソーシャルスキルトレーニングを行っていく中で、コミュニケーション力をつけさせていくことを継続していく。 ・様々な機会を通して、自己有用感を味わえる機会が少しでも多く持つことができるよう、また、子どもたちが成果を感じられるよう、取組みを行う。集団づくりのポイントや仕掛けについての校内研修を行い、共通理解のもと、児童一人ひとりが安心できる集団作りをめざす。 ・学校の取組みの中での肯定的な言葉かけや、適切な評価が、児童の自己肯定感を高め、また、最後までやり遂げる経験をさせることで、達成感や「やる気」を育てていくと考える。引き続き、児童一人ひとりのよい点や可能性、がんばりを見つけ、積極的に評価し、学級集団に返していくことを大切にする。 ・「人の話をしっかり聞くことができる」子どもの育成のためには、まずは大人が子どもの話に熱心に耳を傾けないことには、子どもに聞くことの重要性は伝わらない。学校も今まで以上に、子どもたちの話をたくさん聞くよう心掛けていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でいろいろな制限があり、コミュニケーションが取りにくい環境ですが、他学年の交流など中止にするのではなく、いろいろなツールを使い、子どもどうしが関われる場を作ってほしいです。 ・児童アンケートで「学校に行くのが楽しい」「話をしっかり聞く」「思いやりのある行動」「自己肯定感」の評価が下がってきている。これらの背景に、ゲーム、スマホ、インターネットの低年齢化があるのではないかと思う。発達が未熟な子どものころに、刺激の強い動画やゲームによる疑似体験をすると、脳にダメージを与えるらしく、映画、ゲームには、それぞれ対象年齢が記載されている。実情として、これが守られているかどうかは、家庭での指導に頼らざるを得ない。親世代は、スマホ、インターネットを日常的に使用するが、これらは急速に普及した時代背景があるため、学校等で十分なスマホ、インターネット指導を受けていないと考えられる。今は、家庭でのスマホ、インターネットの規制や指導が、より重要な時代に入っており、学校教育

	<p>とも切り離せなくなっている。保護者向けのスマホ、インターネット教育、また、指導のお願いをより強く進める必要があると思われる。</p> <p>・一方、学校はインターネットから離れられる良い機会である。小学校のうちに、精一杯、先生や友人とのコミュニケーションをとり、できるだけ多く、(現実での)成功体験、あるいは失敗体験を蓄積することが、自己肯定感や思いやりの心を形成するために必要な過程だと考える。</p>
	<p>確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る</p>
自己評価	<p>・「授業は楽しくて、よくわかる」「授業が楽しくわかりやすいと言っている」の項目は、肯定的意見の割合が高いとは言えず、学力向上だけでなく、学ぶ楽しさ・分かる喜びが感じられるよう、これまで以上に日々の授業を改善していく必要性を感じている。</p> <p>・「家庭学習や宿題を行っている」の項目は概ね高いと言えるので、児童が自ら基礎・基本を身につけられるようにできていることが伺える。今後も、基礎基本の確実な定着・活用を図り、様々な活動を通して、学ぶことの楽しさやよりよい学習集団作りを追究していく。</p>
改善の方向性	<p>・分かる授業とは、児童が「できた喜び」を体感して、主体的に学習する習慣が身につくようにする授業であると考え。そのためにも、TT・分割・習熟度別学習や必要に応じての個別指導、具体的な資料や機器等を効果的に取り入れ、児童の理解を助けるよう工夫する。継続して、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに取り組みたい。</p> <p>・到達目標を具体的に細かく設定するなどにより、達成感を味わえる工夫も取り入れていく。</p> <p>・一人ひとりのがんばりを認めることで、適切な評価を行い、学習意欲の向上を図る。</p> <p>・学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。</p>
関係者評価	<p>・基礎が理解できないと楽しいとは思えないので、TT・分割・習熟度別学習は積極的に行ってほしいです。</p> <p>・アンケートの結果を見ると、家では勉強しているが授業はわからない、という傾向が見られる。もし、家での勉強が宿題であれば、それは復習が中心の勉強になっているとも考えられる。予習をせずに授業を受けると、初めての話を聞くことになり、授業についていけなくなることは想像に難くない。家庭勉強における、予習の重要性を再確認する必要があるのではないかと考える。</p> <p>・学力低下に伴って、コミュニケーション能力の低下も見えるように思う。やはり家でのゲーム等の一人遊びに熱中するあまり、自宅学習の時間は宿題のみで完了しているのではないかと心配がある。また、一人遊びのため、コミュニケーション能力の醸成も、臨めないのではないかと心配がある。ただし、大人と子どもの脳の発達の違いがあるので、大人にはそのまま当てはまらないと思う。保護者と子供の脳は違うという点を意識して、保護者の皆様に、家庭での学習時間の確保、遊びの指導をお願いしたい。</p>

<p>日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する</p>	
自己評価	<p>・「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目でも、肯定的評価の割合が高いとは言えない。今年度も、多くの行事が中止・延期・縮小することになり、児童の経験する機会を減少させてしまったことが大きな要因であると感じている。</p> <p>・外遊びをしている児童と、そうでない児童が明確に分かれている。また、クラス遊び以外で自主的に外に出る児童は多くない。</p> <p>・読書についても、よく読んでいる児童と、そうでない児童が明確に分かれている。肯定的評価の割合は高くなかった。</p>
改善の方向性	<p>・学校行事については、先の見えないコロナ禍の中で、児童の安心安全を最優先に考え、本校の実態に合わせてできる限り実施できる方向で考え、行ってきた。これまでの2年間の取り組み、経験を来年度に活かしたい。</p> <p>・教職員が、これまで以上に意識して児童に目標を持たせながら行事や学校内の諸活動に取り組むようにする。</p> <p>・体を動かす喜びを感じられるように、朝あそび・登校班あそび・きょうだい学年あそび、など多様な活動を実情に合わせて行い、日々の休み時間のみならず、運動する機会を持てるよう意識する。</p>
関係者評価	<p>・2年間、子どもたちは窮屈な学校生活を強いられて、終わりもまだ見えないですが、今年度2学期後半はいろいろ動ける期間があり、臨機応変に行事を組み替えて実施していければと思います。</p> <p>・ゲーム、スマホの普及により、体を動かす機会は劇的に減り続けている。体を動かす遊び、ものをつくる遊びをもっと取り入れたい。特に、自然豊かな豊能町の特長を生かした、遊び教育が実現できれば良いと考える。家庭に持ち帰っても、引き続き遊べるような内容が望ましいと思う。</p>
<p>地域に学び、保護者や地域との連携につとめる(学校経営に関して)</p>	
自己評価	<p>・授業づくりや集団づくりに関しては、高い評価を得ており、研究開発校として日々研鑽を重ねてきたことが、評価に反映されていると考える。教職員一丸となって日々授業改善に取り組んできた成果である。</p> <p>・設備面ではエアコンが特別教室にも設置された。また屋上の防水工事も施されたことにより、施設の老朽化は改善されつつある。</p> <p>・緊急災害時のマニュアルを、新型コロナ感染症対策の下でも安全に行えるように、一部改訂を行った。保護者からも、多くの肯定的評価を得ることができた。</p> <p>・保護者や地域ボランティアの登下校の見守りは、毎年高く評価されている。</p>

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりなど教職員の研修の様子も、保護者や地域の方々に発信していくようにする。 ・エアコンは設置されたが、すべての学習教室にまではいたっていない。また、トイレや各教室設備の老朽化など、まだまだ改善されていない部分もあり、保護者からの改善を求める意見も多い。これらをふまえ、引き続き町に改善要望を出していく。 ・緊急災害時のマニュアルに関しては、今後も課題点を整理しながら、毎年更新していきたい。 また、緊急時対応については、HPでも周知できるように検討する。 ・コロナ禍の中、授業支援や校内花壇整備など、サポーターの方々にご協力していただいた。状況にもよるが、今後さらに機会を増やしていき、より充実した教育活動を行いたい。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が少なくなっていく中で、小学校と地域で協力できることがあるはずである。 ・子どもたちに今住んでいる地域の歴史を学んでもらいたい。 ・引き続き緊急災害時のマニュアルや不審者対応など周知してほしいです。 ・地域とつながると共に情報も発信してください。 ・現状として、学校設備はやや改善した。 ・子どもは減り続けていて、豊能町の高齢化率は約47%（R4.1.1. 大阪府推計人口より算出）であり、ほぼ2人に一人が65歳以上となる時代が到来している。この特性を生かしきれていない。過去から言われ続けているが、地域の大人、特に65歳以上をもっと動かし、子ども（あるいは大人同士）をより連携させる仕組みが必要。子どもが少ないので、全員が毎日一回は、わくわく体験ができる社会になってきたと思う。豊能町内に、子どもをわくわくさせる、多くの分野の指導者がたくさんいるはず。学校の先生だけが、子どもを指導する大人ではもったいない。全員を一芸（以上）に秀でたヒーローにすべく、あらゆる角度からの教育（ある意味、英才教育）が可能だと思う。その中でも芯（豊能町の子どもはみんな得意）となる、豊能町の子育てプランが出来上がれば、なお良い。

来年度に活かしていかなければなりません。加えて、学校行事に限らず、普段の授業や学校での生活の中で経験体験したことを、保護者の方から児童に聞いてもらうだけでなく、子ども自身が身を乗り出して保護者に積極的に話したくなるような、そのような学習や経験・体験等を積み上げていくことの大切さも併せて感じています。

コロナ禍の状況を鑑みながらにはなりますが、来年度にこれらのことを活かし改善・発展を図ってまいります。今後とも、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

（最後に）

今年度を振り返り、今後の最重要検討事項の一つとしてあげられるのが、学校行事の中止・延期、その中でも、授業参観・学級懇談がこの2年間、ほとんど行えていないことです。授業参観・学級懇談は、保護者の方々と教職員はもちろん、保護者の方々どうしの繋がりを深めるためにも重要な行事であるとこれまでも考えてきました。コロナ禍の中とはいえ、約2年間もその機会を十分に持つことができなかつたことは、残念に感じています。学校だより、学級だより等での、情報を発信するということももちろん大事ですが、ありのままの児童の姿、学校の様子を知ってもらうという場や、保護者の方々どうしが意見を交わせる場を設けることが足りていなかったことは、反省し、今後活かしていかなければならないと考えています。また、児童が学校で過ごす8時間ほどの姿は、きっと家では見せない、輝いている姿もあるはず。そういった姿を、本来子どもたち自身が保護者の方に見せたいだろうし、学校としても見ていただきたい、と考えています。そういったことができなかつたことは、今年度の反省とし